

事業報告

平成30年度 教育事業 クリスマスマイスター

平成30年11月17日(土)～18日(日)

【対象】親子(小学3年生以上の子どもとその家族)

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

各家庭で行うクリスマス行事がより楽しく充実したものになるよう、家族間の交流を図りながら、必要な知識・技術を身につけるきっかけとする。

～主催～

主 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

～活動日程～

時	10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21																				
11月17日(土)	受付 9:30～10:00		受付	開会式	リース 材料採集		昼食	クリスマス リース作り				夕べのつどい	夕食	キャンドル 作り		入浴	消灯・就寝				
時	7 8 9 10 11 12																				
11月18日(日)	起床	朝のつどい	朝食	部屋清掃	クリスマス ケーキ作り		閉会式	解散	解散 12:00												

～参加者～

16家族(大人:17名、小学生:21名、幼児:1名) 計:39名

(長野県、東京都、愛知県)

～活動トピックス～

活動Ⅰ クリスマスリース作り

午前中に施設周辺で自ら集めた自然素材を使い、オリジナルのリース作りを行った。葛のつるを利用し、自分で巻いてリースの土台を作るところから挑戦し、親子で協力しながらつるを巻いている様子が見られた。飾り付けには南天やバラの実の赤、モミの葉っぱの緑、松ぼっくりやどんぐりの茶色などの自然の色を上手に使ってクリスマスリースを完成させていた。制作後の作品お披露目会では、個性豊かなリースが並び、リースにタイトルをつけてもらい、工夫した点などを紹介してもらった。



活動Ⅱ クリスマスキャンドル作り

自然の家の活動プログラムでもある「デコレーションキャンドル」作りを行った。手の暖かさで柔らかくなり簡単に加工できるシートワックスを使い、粘土遊びの要領で平面から立体まで自由な飾りを作ってキャンドルの土台に貼りつけた。

いくつかのシートを混ぜ合わせ好きな色を作ったり、細かい細工を作ったりと創造性あふれる作品が完成した。子どもたちの作品を見て、大人が思いつかないような発想に保護者は驚いていた。



活動Ⅲ クリスマスケーキ作り（スノードームケーキ）

かまぐららの形をモチーフにしたスノードームケーキを製作した。土台をつくるためスポンジを切り出し、型となるボールへ敷き詰める作業から行い、完成したケーキをイメージしながら取り組んだ。生クリームの泡立てでは、子どもたちが積極的に泡立てに挑戦し、最後の仕上げは保護者が手伝うなど親子で協力して作業をする場面が多く見られた。デコレーションでは中に入れるフルーツや生クリームの量などを親子で相談して、ケーキを切った時の断面や完成をイメージし、家族で協力して作り上げている場面が見られた。



～参加者の声～

- ・リース作りの時に、森の中で自分で集めた材料を使って作れて良かった。
- ・オリジナルのキャンドルを親子で作ることができて記念になった。お家で火を灯すのが楽しみ。
- ・生クリームの泡立てが昨年は途中であきらめてしまっていたが、今年は根気よく最後まで取り組み泡立たせることができていて子どもの成長を感じられた。

～成果と課題～

- 開会式後に、家族交流のアイスブレイクと家族の自己紹介を実施しリースの材料採集を開始した。そのことで、材料採集において家族だけではなく他の家族と交流しながら行う姿が見られた。
- リースの材料を自らの手で採集することで、参加者の満足度も高く、製作する際も材料を余すことなく使い切る家族が多かった。材料一つひとつへの愛着が感じられ、個性あふれる作品となった。
- 2日間の各プログラムを2家族ずつのグループに分け活動を行うことで、家族間での交流を深める機会になった。
- 昨年度にクリスマスセミナー“ビギナー編”に参加した家族が数家族おり、ステップアップした事業としての認識が得られたと感じる。
- 創作活動中、飽きてしまい部屋の後方や廊下等で遊ぶ子どもがおり、活動時間内に早く作品が完成した際の声掛けなどを工夫し、意欲を喚起するようにしたい。
- リース作りの土台として葛のつるを利用した。当初は所内にて採集する予定であったが事業当日までの数日冷え込みが厳しく、霜の影響で硬くなってしまいリース作りには適さなくなってしまった。今回は前日に近隣にて採集したものを使用したが、来年度以降においても、リースの土台として使用する、つるについては事前に採集しておく必要がある。